8．太陽活動の気候影響問題

「現在，太陽活動の気候に関する影響などの論文が，物理学者の手によりPhysical Rev. Lettersなどの有名な雑誌に掲載されたりしており，社会的に混乱を与えている．これに対し，ちゃんと対応したら良いのではないか」という提案がSPARC議長のM. Gellerからなされた．彼の提案は，SCOSTEP(Scientific Committee on Solar-Terrestorial Physics)とICSU(International Council on Scientific Unions)とWCRPが＄3Kずつ拠出し，太陽や超高層や気象の研究者達を集めて委員会を組織し，議論を行い意見書を出したらどうか，というものであった．これに対し，「ことさら大仰な対応を行えば問題を意味あるように錯覚させる危険性がある」ということで行わないことになった．ただ，「研究の点でISCCP（International Satellite Cloud Climatology Project：国際衛星雲気候学プロジェクト）のデータなどが使われており，これらの雲に関するデータの精度については明確に発表した方がよい」とのコメントをGEWEXの方に送ることとなった．

9．WOCE問題

WOCE（World Ocean Circulation Experiment：世界海洋大循環研究計画）は2002年にプロジェクトの終了を迎えるので，このサンセットの時期を如何に運営して，次につなぐか，が議論になった．WOCE自体は，海洋中心のプロジェクトで，そのあまりにも海洋中心の姿勢がWCRPの中で不快に思われていた時代もあったが，最近では，多くの成果を挙げた，と言う認識は広まってきたように思われる．ただ，WOCEには，Ocean in the Climateと言う観点だけではなく，海洋そのものの研究という観点もあり，それを全てWCRPに含むのは難しいのではないか，と言う意見が大勢を占めた．どの部分をCLIVARに引継ぎ，それ以外の部分はどこに引き継ぐかはWOCEのSSGで議論し提案してもらうこととなった．

10．雑感

とにかく，読むべき文書の分量が多くなってきた，と感じる．それ自身は，気候研究の進展を意味しているから歓迎すべき事柄なのではあろうが，だんだんに個人としては，大変になってきたと思う．国際協力や国際共同研究は，気候科学にとってはこれからも不可欠になるのであるから，このような国際的なリーダシップを取れるような枠組み作りを目指すべきであろう．幸い，本年度から始まった振興調整費に「国際的リーダシップの確保」という研究費目もできたことでもあり，これらを通して，新しい体制を実現すべきであろう．日本としても，GAME, CEOPと続くプロジェクトでの一部の人の国際的な指導性については広く認められているので，今後は，この動きを広く，また，サイエンスの成果面でもリーダーシップを発揮できるように考えてゆくべきであろう．

最後に，S. Solomonが，「我々にも歴史がある」といいながら，ブルーグラスの生演奏を聞かせてくれた．最初は良かったが，同じような調子で，少々退屈した．やはり，「我々の方が歴史はあるな」と思った次第である．

第21回IGBP/GAIM研究会のお知らせ

下記の日程で標記の研究会を開催します．

開催日時：2001年10月13日（土）午前中

場　　所：岐阜キャッスルホテル

〒500-8176　岐阜市県町2-8

名鉄新岐阜駅から徒歩1分，JR岐阜駅から徒歩5分

地球圏と生物圏の相互作用を中心としたデータ解析，モデリングなどの学際的な研究の発表を募集いたします．

発表希望者は，2001年9月15日までに，発表題目を添えて下記までお申し込み下さい．

発表申し込み先：〒790-8566　松山市樽味3-5-7

愛媛大学　農学部　　末田　達彦

Tel & Fax：089-946-9878

E-mail：sweda@agr.ehime-u.ac.jp

または

〒305-0052　つくば市長峰1-1

気象研究所　環境・応用気象研究部　馬淵　和雄

Tel：0298-53-8616，Fax：0298-55-7240

E-mail：kmabuchi@mri-jma.go.jp